

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>全職員でホームの社会的役割、必要性を明確に認識し、入居者が「自分らしく生きる為」「今」望んでいる事に気づきケアする事を理念として掲げ、地域全体で支えていこうと日々努力している。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>ホーム内の目に触れやすい所に理念を掲示し、毎朝の申し送り時には、必ず唱和して共有しあい、理念を基にしたケアの実現に取り組んでいる。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>3ヶ月毎発行の季刊誌「和っぷる通信」を通じて、ホームの理念や役割等、その暮らしぶりを理解して頂けるよう開示し、働きかけている。又、ホーム独自の手作りポスターを作成、地域への理解を深めている。</p>	<p>手作りポスターは、地域の各集会所や公共施設、学校にも配布して、身近に感じてもらえるよう呼びかけている。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。</p>	<p>日頃から地域の方々と気軽に挨拶を交わし、花の手入れや野菜の差し入れがあるなど、良好な関係を築きあげている。入居者と地域全体参加の「和っぷる盆踊り祭」を企画し、フリーマーケットや出店で交流が深まった。職員に地元出身者も多く、職員的一声で鶏舞くらぶ、幼・小・中・高、学校ぐるみでのボランティアや交流会も多く、若妻会や老人クラブ等の幅広い年齢層でのボランティア活動を通じて、一年中の協力が得られている。地元のお祭りや、小学校の運動会、高校の文化祭にも招待され、各行事への参加も充実している他、職員やその家族、入居者で町をきれいにと、ゴミ拾いを実施して、地域の方々に喜ばれている。現在、キャラバンメイトはいないが、季刊誌紙面にて認知症の理解を求め、普及活動をしている。</p>	<p>日々、地域に役立つ事がないか話し合い、これまでの関係を継続しながらも、地域貢献に努めたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		<p>市の担当者にも、推進会議への出席や助言、相談窓口としての積極的受け入れを呼びかけていきたい。</p>
8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		<p>外部の担当職員を招き全職員で、説明や指導を受け、全員が理解や把握している体制づくりの為、更に勉強していきたい。</p>
9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
11	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		<p>家族への報告は怠ることなく行い信頼関係を継続していきたい。</p>
13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		<p>直接言えない部分についても日頃の関わりの中からもみ取り、気づきとして捉えていきたい。</p>
14	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
15	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>16 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>認知症施設であり顔馴染みの関係作りが必要である事を認識し、職員の移動等はほとんどなく、今までも職員の入れ替えによる混乱は見られない。</p>		
<p>5.人材の育成と支援</p>			
<p>17 職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>業務体制を整え定期的に全職員がそれぞれの外部研修に行く機会を設け、その都度資料提供と報告をし、勉強会を行い日々の介護の向上に努めている。</p>		<p>外部研修は出来る限り受けているが、更に研修会の参加や勉強会を設け、更なる向上を目指したい。</p>
<p>18 同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他のグループホームとの交流会や行事に参加する機会を設け、他のホームの良い点などを取り入れたり、お互いの意見交換なども出来、職員や利用者共々良い関係を作ることが出来ている。</p>		<p>もっと沢山のホームや職員との交流を計りたい。</p>
<p>19 職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員や職員の家族も交えたボーリング大会や食事会などを開催し、業務と離れた場所での交流も行っている。又悩みなどを気軽に話せるようなコミュニケーションを図っている。</p>		
<p>20 向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>毎月のスタッフ会議に出席したり朝の申し送り時や業務中も職員の個々の状況を周知し、必要に応じて相談やアドバイスが出来るよう努力している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	<p>初期に築く本人、家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所前に本人や家族との面談をしており不安な事や求めている事等を事前に聞く機会を設け、本人家族の思いや希望等に対して真摯に受け止める努力をしている。</p>	
22	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>十分な聞き取りと話し合いをし「その時」必要な支援が受けられるような対応をしている。すぐに対応が出来ないことに関しては、担当のケアマネや他の関係機関と連携し必要に応じた対策をとっている。</p>	
23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気は徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入所当日は歓迎の意味を込めて事前に本人の嗜好をアセスメントし“特別メニュー”を提供している。入居者同士がスムーズに受け入れられるよう、座る位置の工夫や自己紹介が出来る場面作りをしている。</p>	<p>本人の不安を表情や言動から察し配慮していきたい。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者から料理の下ごしらえや味付けを教わったり、一緒に料理をする場面が毎日見られている。昔ながらの風習や生活の知恵を学び、共に暮らし共に支えていく関係が作られている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族と入居者、職員と一緒に楽しむ事が出来るように家族参加の行事も取り入れている。春の観桜会、夏に家族交流会、秋は紅葉狩り、冬はクリスマス会と四季を通じて共に過ごす時間を共有し喜ばれている。家族同士が交流出来、情報交換の場としても役立っている。		家族会の発足も考えており、今後相談の上取組んでいきたい。
26 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時には入居者のこれまでの生活歴をさりげなく聞き出すようにしており、今後のケアに活かされている。あまり面会に来る事が出来ない家族とは疎遠にならないよう、良好な関係をサポートしたり、認知症による症状で家族を忘れないよう居室へ写真を飾るなど工夫している。		
27 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者には以前の職場仲間や友人知人の方々が訪れたり、長年の文通をしている方がおり、良好な関係が継続している。又一緒の買い物や外出時には、馴染みの場所へ立ち寄る事もあり、個々の希望の支援に努めている。		
28 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	軽作業等では入居者同志がどのようにやれば良いか聞いたり教えたりする場面が良く見られる。職員はその関係を大切に、出来ない所はさりげなくフォローするよう心がけている。一緒に作業をしながら会話が生まれ楽しく過ごす事が出来ている。		
29 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後も退居先や自宅へ訪問したり、必要に応じて相談ののったりしている関係が継続してある。又差し入れを持ってきてホームへ遊びに来てくださる家族もある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者の思いや希望を十分把握するよう努め毎月のケア会議には担当職員の細やかな気づきを元にチームケアが出来るよう再確認している。</p>	<p>日々、感情の変化に気づいてあげる事を大事にしているが、小さな事でも見逃さないよう、これからも気づきを大切にしていきたい。</p>
31	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>センター方式を使用した十分なアセスメントをとっており把握に努めている。又家族からだけでなく、面会に来た親類や友人からもプライバシーに配慮しながらさりげなく情報収集に努めている。</p>	
32	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>個々の把握は出来ており、入居者の出来る事、出来ない事を全職員が周知するようにしている。どんな場面に於いても感謝の気持ちや励ましの言葉掛けを忘れず、入居者の心地良い暮らしを提供している。</p>	
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>職員一丸となり、ケア課題については、ケア会議や気づいた時点ですぐに話し合いを持ち、対応している。暫定プラン作成後家族に意見を再確認し、最終プランに繋げている。</p>	<p>利用者の意見を更に聞くように努めたい。</p>
34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>期間を6ヶ月と決めているが、入居者の状況変化に合わせて随時見直しを行なっている。その都度家族にも必ず確認し意見を取り入れている。</p>	<p>積極的に入居者本人の意見を取り入れるよう努めたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>35 個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>ケアプランに沿ったケアの項目を設けて毎日記載している。他に受診や昼夜と色別にわかりやすく具体的に記録している。日々の行動や生活状況を記録し情報の共用に活用している。本人の会話言葉をそのまま取り入れ気づきに繋げている。</p>		<p>事故報告時だけではなくヒヤリハットの記入も取り入れケアプランに反映させたい。</p>
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
<p>36 事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>受診時の移送や買い物等への支援を必要に応じて対応している。</p>		<p>当ホームは、グループホームのみの単独事業だが、和っぷるオリジナルの行事など考え、入居者が生き生き暮らせるよう支援していきたい。</p>
<p>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</p>			
<p>37 地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>日頃から地域の方々がボランティアに来てくださったり野菜の差し入れがあり、あらゆる面で支援を受けている。推進会議を通じて地域の民生委員や町内会長さんと顔馴染みとなっており、緊急時には、援助していただけるよう体制がある。</p>		
<p>38 他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>車イスが必要な方には、社協より借りるシステムが整っている。又、他のケアマネとも入居者の重度化や身体変化時等随時連絡を取り合っている。</p>		
<p>39 地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>福祉の制度や総合的な事については市役所担当者に連絡し、確認するなどして対応している。</p>		<p>困難事例時等には包括支援センターの支援を求めたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者のかかりつけ医を把握し、定期的な受診を行い医師の指導を受けている。又かかりつけ医と家族との連絡を密にし病状に合わせた診療科目の診察を受け、適切な治療が出来るようにしている。24時間対応の協力医療機関を確保しており緊急時の相談や診察を受けられる体制がある。救急搬送が必要時の対応としてどの医療機関へ行くか事前に話し合っている。		
41 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	定期的な受診にてかかりつけ医師や精神科医師に経過報告し、相談しながら指導を受け内服の処方をして頂いている。		
42 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員4名と歯科助手経験者2名を配置しており、入居者の健康状態の把握がされており、体調の変化が見られた場合は、いつでも相談が出来必要な措置が受けられている。		
43 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は治療がスムーズに行なえるよう医療機関への情報提供を行なっている。入院時は、入居者の負担にならないように面会に出向き、家族、医療機関との相談経過報告を受けている。		
44 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在、ターミナルケアの体制は整えていません。		本人の意思や家族がどのようにしたいか等を聞き、それを尊重されるような話し合いをしていく。今後もターミナルケアの勉強を重ね、全職員で話し合いのもと検討していきたい。
45 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医療機関による治療方針や家族の関わり方、又本人の意思により今後の方針を十分に話し合い、入居者がより良いケアがなされるよう取り組んでいる。常に家族や医療機関へ経過報告を行い、急変時の対応や連絡方法等の話し合いをしている。		現在は行っていないが看取りに対する意識を高め今後十分検討し取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替え時には家族と十分な話し合いをし、同意を得ると共に、別の居所との連絡調整や情報交換を行なっている。		
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
47 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりを尊重した声掛けやさりげないサポートを行なっている。又、同じ目線での会話に心がけている。		
48 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日々の生活を通じて入居者に声掛けしさりげなく希望を聞き出し、食べたい物や行きたい所などの現実に向けて支援している。行事等の参加や日常生活の中でも自己決定する場面づくりを支援している。		
49 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者本人がテレビや食事、入浴、起床等一人ひとりのペースや力量に合わせて居室やホールで自由に過ごせるようにしている。		職員間で常に確認しながら業務優先ではない対応をするよう取組んでいるが、日々変化する入居者の気持ちを考え支援していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
50 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入浴時には自分で好みの服を選んだり髪の手入れを鏡を見ながら自分でするなど自分を大切にしている。家族の送迎で馴染みの美容院へ行かれる他ホームで出張サービスを利用できる支援も行なっており、一人ひとりの希望、又家族の希望に沿うようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	会話を楽しみながら入居者と職員と一緒に食事を摂っている。食べこぼしや口の周囲の汚れ等はプライドを大切に職員がさりげなくサポートしている。必要な方には家族了解の元エプロンを使用し座席に配慮している。準備や後片付けは入居者から自発的に行なわれ、共に行なっている。		
52 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	自分の好みのおやつを買い物したり家族等からの差し入れにより日常的に提供している。おやつタイムがあり好みの飲み物を選んでいただいている。又、希望があった都度、行事食等には好みのお酒で楽しんで頂いている。		
53 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンを記録し、把握している。パターンに応じたさりげない事前誘導があり、日中のリハビリパンツから布パンツ使用が可能になった方もいる。又、排尿感覚がない入居者には、行動で察して、気持ちよく排泄できるよう促し支援している。		
54 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望に合わせた午前入浴を行っている。体調に合わせて、後日の入浴や希望により、シャワー浴も行っている。業務優先ではないゆったりした雰囲気を入浴して頂いている。又、十分な職員を配置し、事故のないよう配慮している。		安眠策として、午後入浴を行った事があったが、昼食後はゆっくり出来ず生活ペースが崩れたので、今後も希望にあわせた随時の対応をしていきたい。
55 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	生活のリズムを作り、一人ひとりが安眠できるよう支援している。医師の指示のもと、眠剤を服用している方もいる。寝付けない方には、話し相手になっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、草取り、裁縫、マンドリン演奏、ビデオ鑑賞、掃除等、日中の何気ない生活の中で役割や楽しみを持っていただくよう支援している。		


項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の希望があれば、家族と相談し、本人の力量に合わせた額を持って頂き、金銭所持の大切さを理解して頂いている。訪問販売のヤクルト購入時や買い物やお祭りなどで、欲しい物や好みの物を選ぶ機会を設けて、楽しみづくりに活かしている。管理が困難な方には、金銭出納簿にて安全に管理している。		
58 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの菜園の手入れや草取りをしたり、隣近所へ散歩に出掛けたり、ホームの買出しに一緒に行くなど、希望に応じて可能な限り、支援している。又、天気の良い日は、庭でレクレーションやお茶会をしたり、お弁当を作って、外で食べたりと気分転換を図っている。		
59 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個々の希望を会話から聞き出すが、今の所、要望は聞かれない。今年は、家族と共に、十和田湖へ日帰りバス旅行を実施。何十年ぶりの十和田湖や溪流に皆様、感動されていました。		なかなか全ての方の行きたい場所へは行けないが、出来るだけ望みを叶える努力をしたい。
60 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望に合わせて、電話口まで誘導したり、自ら電話をかけられるよう支援している。居室へ本人所有の携帯電話を持ち、家族とやり取りしている方や、遠方の友人と文通している方も降り、良好な関係を支援している。		
61 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に訪問していただけるよう声掛けしている。入居者の入所状況を理解して頂き、気軽に会話ができるよう居室へ誘導し、ゆったり過ごしていただいている。居室にてマッサージを受けられている方もいる。また利用者の家族が厨房を使い皆さんに手料理を振舞ってくれた事もある。		
(4)安心と安全を支える支援			
62 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを全職員が十分周知している。		今後、生命の危険性が伴うような事が発生するようであれば、家族と話し合いを持ち、対応策を見い出して行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム前が道路に面しており、交通量も比較的多く、事故防止の為玄関のドアは、スイッチで開くようになっていて、家族へも説明し、了解していただいている。外へ行きたいなどの行動が見られた時は、素早く察知し、自由に入出入り出来るよう、声掛けや見守りをしている。		
64 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜共に職員は、入居者の所在や様子を確認しながら、見守っている。居室にて過ごされている時も、プライバシーに配慮しながら、時には訪室し、声掛け等で、安全確認している。		
65 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	マニュアルを作成しており、薬や刃物、誤飲につながるような物や洗剤等は、鍵のかかる納戸や洗濯室にその都度、確実に保管している。手洗い石鹸や手指消毒液の常時使うものは、認知の力量に応じて、常に声掛けや付き添いのもと、使用している。		
66 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	対策マニュアルを目につく所へ貼布し、全職員がいつでも対応できるようにする他、外部研修に参加し、報告や勉強会を行い、事故防止に努めている。事故発生時は報告書を作成し、再発防止に向けた検討会議を行っている。		今後も予想つかない事がおこる可能性があるため勉強会等へ積極的に参加し、少しでも入居者が安全に暮らせるよう、更に学んでいきたい。
67 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年一回、消防署員の指導にて救急法の勉強会を行っている。看護職4名を中心に応急手当法を学び、全職員が対応できるよう訓練をしている。		全職員が対応できるよう定期的な訓練を色々な場面を想定して行って行きたい。
68 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年二回(春・秋)場面に応じた避難訓練を実施し、災害時のマニュアルを作成している。推進会議を通じ、地域の方に協力を得られるよう働きかけている。		月に1回と避難訓練の回数を増やし、職員同士で適格な方法を話し合い、身に付ける必要がある。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
71	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		
72	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
73	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		
74	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		<p>今後も栄養士からの指導を継続していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対応マニュアルが整備されており、マニュアルは随時見直しを行っている。看護師職員が中心となり、予防策や対応等についての勉強会も行っている。予防接種や感染症に関する情報は入居者及び家族へも周知されている。予防策のひとつに次亜水消毒を取り入れ、正しく使用している。		左記の通り実施しているが、常に新しい情報を共有し、予防に努めたい。
76 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	定期的に調理器具や冷蔵庫等の清掃、消毒を行っている。布巾等は毎食後、次亜水殺菌消毒を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
77 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の外ドアは常に開放しており、気軽に入れるよう配慮している。又、玄関周りには、季節の植物が飾られている。ホールからは直接庭や畑、洗濯干しに行けるようにスロープを設置し、工夫している。		常に季節感の感じられる玄関周りにしていきたい。
78 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間にはテレビやソファがあり、家庭と変わらない雰囲気工夫している。季節を感じて頂けるよう、こたつを設置したり、五感に働きかけるような自然の実や草花をあしらひ、自発的な会話ができるよう工夫している。共同で使用するトイレ等は、入居者の目線に合わせた目印でわかりやすく表示している。		
79 共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳の小上がりでは、入居者が自然と集まり、会話をしながら洗濯たたみを行ったり、昼寝でくつろぐなど、居心地の良い場所となっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>80</p> <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>なじみのある物を持って来て頂けるよう、働きかけており、鏡台や小物、ぬいぐるみ等で、自分の部屋であるという認識が持っている。大切にしている写真やマンダリンを飾るなど、その人らしい居室となっている。</p>		
<p>81</p> <p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>居室は適時に換気を行い、ホールには空気洗浄機を設置している。冷暖房は温度、湿度を十分に管理し、入居者に確認しながら、適切な調節を行っている。</p>		
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
<p>82</p> <p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>入居者の中には、歩行訓練を日課としている方もおり、ホーム内は要所に手すりがあり、バリアフリーで、安全面を考慮した造りとなっている。車椅子対応の洗面所や食卓テーブルの高さ等、個々にあった工夫をしている。</p>		
<p>83</p> <p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>職員は、入居者が一人ひとりが出来る事を把握しており、食事の下ごしらえや盛り付け、洗濯たたみ、草取り等、一人で出来ることは促し、見守りにて行っている。混乱、失敗時にはさりげないフォローで、不安解消できるように声掛け等行っている。</p>		
<p>84</p> <p>建物の活用</p> <p>建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>家庭菜園やプランターへの花植えを入居者と一緒に行ったり、庭ではスイカ割りや流しそうめんを行い季節感を味わっている。ホーム広場では、地域の伝統芸能「沢田鶏舞」を披露する場として活用されたり、和っぷる盆踊り祭にて、地域の方と一緒に楽しまれた。</p>		

( は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

優しい目と和ませる笑顔で温かい家庭環境に努め、本人、家族共に安心した生活が出来るような支援に努めています。今後も気づきを大切にケアに努めます。